

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590700076		
法人名	株式会社 アキタニット		
事業所名	グループホームしゃくやく3号館		
所在地	秋田県湯沢市杉沢字森道下87-20		
自己評価作成日	令和5年8月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和5年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各ご利用者様の意向、また出来る事を十分確認したうえで、それぞれに合った柔軟な対応を行いながら快適に過ごして頂ける、また、ご家族様やご友人、地域の皆様が気軽に訪問が出来る環境作りに努めております。
 一般に新型コロナウイルス対策については緩和されておりますが、当事業所を含めた高齢者施設等におきましては感染時のリスクを常に念頭に置いていなければならない、現状では面会制限などで皆様にはご不便をおかけしておりますが、ご利用者様の安全を第一に考え、これからも安心して生活ができるグループホームであるよう努めて参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

バリアフリーのホーム内は広々として明るく、ゆったり過ごせる雰囲気があり、玄関、非常口は車椅子でも楽に出られるようになっております。地域との繋がりを大切なものとして取り組み、理髪店や近隣の方々と良好な関係性が構築され、災害時には近隣住民の避難場所として想定し、運営推進会議でも提案しています。完全に制限をなくしたわけではありませんが、少しずつ緩和しながら面会を可能にして家族の安心感に繋げ、また、医療機関と連携を図って安心して住み続けられるよう取り組んでおり、最後の時まで変わらない親身な支援が提供されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、職員それぞれが最善のケアが提供できるように努めている。	職員それぞれが目標を立てている他、毎月ホームの目標を設定してケアの指針とし、実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍において組織全体としての交流は激減したが、関係性が希薄にならない様に、普段から地域の方々とは声を掛け合う事を大切にしている。	地域交流の一環である納涼祭もコロナ禍で開催できませんでしたが、近所の雪寄せのお手伝いをしたり、床屋さんを利用したりと地域との繋がりを大切に活動しています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議の資料を通じてお伝えしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍において集まる事が出来ない場合は文書開催として、ご意見等を頂きながらサービス向上に繋げている。	書面上の開催であっても資料送付のみにとどまらず、対面会議と同様にメンバーから意見が収集できるように工夫し、サービスの向上に活かすことができるよう取り組んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	普段から行政担当者とは電話はもちろんであるが、直接の対話も大切にしており、関係構築に努めている。	行政とは日頃から連携を密にしています。情報提供や制度上の相談等しながら協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修等を通じて職員の共通認識を深め、日常的に職員間でチェックを行いながら身体拘束及び虐待防止の徹底を図っている。	研修等で周知を図り、身体拘束、虐待のないケアに取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等を通じて学び、適宜マニュアルを確認している。現在成年後見制度申請中のご利用者様がおられ、行政担当者との連携を密にしている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に説明し、ご納得頂いたうえで手続きを進めている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	運営推進会議以外にも、日頃から電話や面会時にご意見等を伺えるようにして運営に活かしている。	電話や面会時に話を聞いています。要望等にはその都度対応しています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	意見や提案については、会議以外にも日常的に話しやすい環境をつくり、管理者を通じて経営者へ伝えている。その意見等については柔軟な対応にて業務へ反映されている。	職員の意見、提案を取り入れて勤務形態の変更等をしながら運営に反映させています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市全体の関係事業所による地域ケア会議等を通じて横のつながりを持ち、より多角的な視点からの捉え方を学ぶ事により、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階においては、特に「本人の思い・職員の気づきシート」を活用し情報共有する事で、ご本人の不安解消に努め良好な関係構築を図っている。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	分からない事や相談には迅速に対応する事、また話しやすい環境にする事で、信頼と安心感を持って頂けるように努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人を尊重し、能力的にいま出来る事を大切にして、コミュニケーションを取りながら一緒に作業などを行うように努めている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族よりご本人とのエピソード等を伺いながら、ご本人にとっての最善のケアを見出して、共に支えていける関係作りに努めている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	電話での通話はもちろんだが、環境によってはTV電話やWEBカメラを使用したお話しをしてもらうなど、これまでの関係が決して途切れない様、積極的に支援している。	帰宅、家族との外出はコロナ終息を待って再開されるようです。花見ドライブで出身地を巡り、懐かしい場所を訪ねることもあります。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がトラブル回避のため適宜フォローをしつつも、気の合うご利用者様同士が気兼ねなく交流できるよう支援している。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後においても、必要に応じて相談等の対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のケース記録や定期的または状態変化に応じて行うアセスメントにて状態や意向を把握し、ご本人が快適に生活できるよう環境整備を図っている。	日常の様子や会話から意向の把握に努めています。入浴時や夜勤の時は利用者の思いを聞くことができる良い機会と捉え、アセスメントに繋げています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴等を伺い、ご本人の趣味嗜好を理解したうえで、生きがいや楽しみを持てるような支援に努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	担当職員が毎月のモニタリングを行い、サービス担当者会議にて確認・検討のうえ現状に即した個別介護計画を作成している。	担当職員のモニタリング後、ユニット会議で話し合い、介護支援専門員が介護計画を作成しています。家族の要望は事前に確認しています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	毎日のケース記録にはその時の気づきやご本人の思いも記載し、現状に沿ったケアに繋げている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理容については近所の床屋を利用させて頂いているが、訪問での散髪にも対応して下さっている。		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の意向に沿って支援している。 ご家族付き添いでの通院の際には、書面等で情報提供を行っている。	希望に添って支援しており、家族の協力も得られています。協力医の訪問診療が行われ、緊急時の連絡体制もとられています。訪問看護、協力歯科医との連携も図られ、適切に支援しています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に状態を伝え、適宜必要なアドバイスを受け、それぞれのかかりつけ医への受診に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	担当看護師や相談員とは連絡を密にして情報提供等を行い、状態把握に努め早期退院に向け支援している。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所される段階で取組内容を説明している。実際対象となられた場合は、ご家族、医師、看護師と連携しながら支援している。	本人、家族の要望に沿って支援しており、安心して終末期を迎えることができるよう取り組んでいます。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実際に急変や転倒事故など対応経験した職員や管理者から、ミーティング等を通じて対応の仕方を振り返ってもらい、都度確認している。		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々にもご協力を頂き避難訓練を実施している。訓練後は反省点をまとめ、避難方法の検討や次の訓練に活かしている。	避難場所の確保、訓練への参加等、運営推進会議で話し合いが行われ、近隣の協力体制ができています。飲食料を備蓄しており、ホームが近隣住民の避難場所にもなり得ることも運営推進会議で提案しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者を敬う心を持ち、不快感を与えない態度、言葉遣い、声のトーン等を意識して接する様に努めている。	親しみを込めて接しながらも年長者として敬意を払い、馴れ合いの態度にならないように気をつけています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段着や整容面など、ご本人やご家族の意向を伺いながら支援している。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好を確認し、場合によっては代替食等の提供を行い、職員も同じテーブルに着き楽しく食事している。食事の準備や片付けについてもご利用者様と一緒にやっている。	山菜の下処理や食後の片づけ等をしていただき、ホーム内で食事をする時は以前と同様に職員と一緒に摂っています。コロナの感染状況を確認しながら外食を楽しんでいただくことを検討しています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医からの指示などをもとに個々に合わせた支援を行っている。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや介助にて行っており、就寝前については適宜義歯洗浄剤を使用している。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各ご利用者の状態・状況に応じて適宜オムツ類を使用したりポータブルトイレを設置するなど柔軟に対応している。	布パンツに移行できた方もおり、チェック表を活用して利用者個々に合った排泄管理を行い、状態の改善、維持に向けて努力しています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事以外での十分な水分摂取や牛乳の提供、日々の体操等を行って便秘予防に取り組んでいる。慢性的な便秘症の方については主治医へ相談のうえ下剤の調整を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	その日の気分や健康状態を把握し、入浴の間隔が空かないよう、またご本人の希望に沿えるよう配慮している。	基本的には週2回の入浴となっておりますが、続けて入りたい方の希望に応じたり柔軟に対応しています。利用者の状態に合わせて介助し、全員湯船に浸かって入浴できています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各ご利用者の生活リズムを把握しながら安心ができるような環境を提供し、夜間の安眠に繋がるよう支援している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の情報については薬剤師とも確認しながら服薬支援を行っている。症状の変化についても、かかりつけ医と情報共有しながら対応している。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の趣味嗜好や得意な事などを把握したうえで、家事の役割を担って頂いたり、歌番組や時代劇をTVで視聴したり、レク等で楽しみを持って頂けるようにしている。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍においてなかなか実現できていない。しかしながら、施設敷地内の散歩や、限定的に少人数ずつでの花見や公園散策を行った。	ドライブで季節の花を観に出かけ、思い出巡りをする機会をつくっています。コロナ禍では遠くに出かけることが頻繁にできないものの、ホーム周辺の散歩をして気分転換できるように支援しています。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル回避のため、ご本人が現金を所持すること、また預かりも行っていない。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心掛け、屋内は場所によって温度差が大きくなるしない空調設備を採用している。季節に応じてひな飾りや絵灯ろうを設置している。	共用の場所は光が多く入り、利用者がブラインドで明るさを調節しています。館内は不快な臭いもなく、掃除を手伝ってくれる利用者もいて清潔な空間になっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりがマイペースで過ごせる環境づくりに努めている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で愛用されていた物を積極的に使用して頂くようにしている。	好みの物を持参し、畳スペースに合わせて利用者それぞれがベッドを配置して過ごしやすいように工夫しています。在宅時、布団で休んでいた方はホームでも同じスタイルで休んでいます。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内はバリアフリーとなっており、ご利用者様に応じて場所名や居室に氏名を掲示するなど工夫している。		